

19(21)古代アメリカ都市と——独立した文明 (比較都市論⑥)

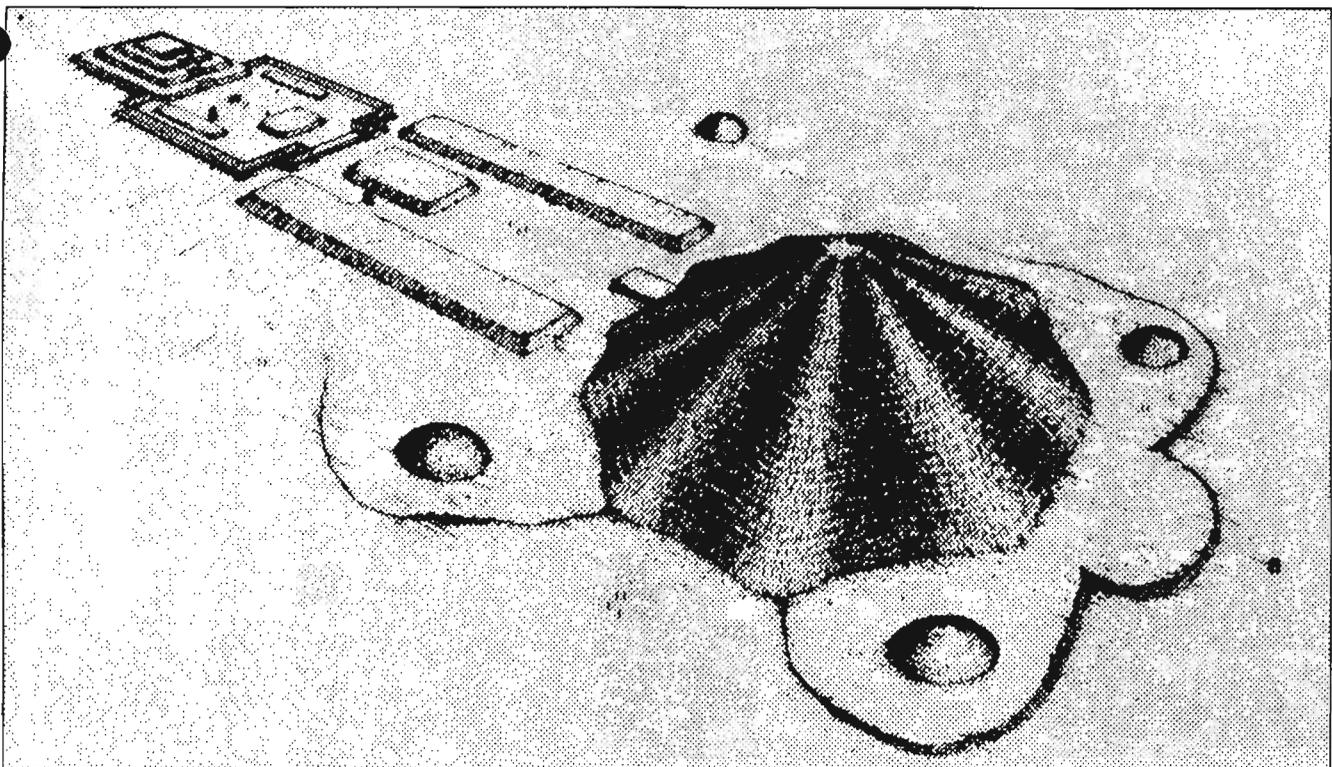
2004/10/16

- 1 四大文明から独立した文明と都市——自立と多様——古代アメリカ——独立した文明
- 2 アメリカへの人類の進出——アジアとアメリカ陸橋 35000,25000,13000,11000 前
 - 1) 狩猟採集民 11000~~X~~~9000~~X~~年前 南北アメリカ縦断 BC7000 食物栽培
 - 2) 栽培植物 BC6000 ヒョウタン、BC4800~3500 トウモロコシ ジャガイモ、トマト
 - 3) 分化 ①草原—狩猟採集、②森林—焼畑移動、③首長国、④文明国家
- 3 メソアメリカ——メキシコ・ガテマラ
 - 1) オルメカ帝国 BC1200 ラ・ベンタ、サン・ロレンソ祭祀センター 労働力 18000 人
ジャガー神 体系的宗教の成立——共同社会の閉鎖性(地母神・自然崇拜)の打破
文化過程の先行 技術の持続と無展開 青銅は祭祀用
 - 2) テオティワカン BC200 L5km 死者の通り 幅 40m 海拔 2200m
 - ① 月のピラミッド h42m 太陽のピラミッド h65m+10m 4段 L225m
 - ② シウダデーラ (ケツアルコアトルのピラミッド) 雨神トラロク 水の神 神官
 - ③ 神殿の名声 巡礼者・礼拝者の糾合 商業と交易 大広場(人の交歓、交易)
 - ④ 基盤の目の居住区(神殿と共存)、職業的工人 400 黒曜石工場 土器製作
 - ⑤ 農村人口の 90%市内居住 チナンバ耕作 (人工浮島)
 - ⑥ AD~200 大膨張 20²km 45000 人、450 絶頂 人口 75000~120000、200000 説
 - ⑦ 平和都市 城砦なし 人身御供なし 天水依存—不安定—超自然の神
 - 3) マヤ文明 BC250 古典前期 250~600 古典後期 600~900
 - ① 熱帯雨林の文明? テオティワカンの影響
 - ② オルメカ暦法 20 キン、18 ウイナル、20 トウン、20 カトゥン(7200 日)、
バクトウン(14400 日=394 年) 3113 年基準
 - ③ 低地マヤ(トウモロコシ、綿、衣服、土器)チチェンイツァー、ティカル
 - ④ 高地マヤ(黒曜石、塩、奢侈品、メタテ)コパン、カミナルフユ、パレンケ
 - ⑤ 施設 神殿(ピラミッド) 人身御供・心臓 広場、球技場、宮殿、天文台、石碑
 - ⑥ 大センター10000~30000 人(ティカル) 小センター3000 人
 - ⑦ 滅亡の秘密? a) 期限説 b) 高度成長の限界 衝突 攻撃的 強制的⇒脆弱
 - 4) テノチチトラン アステカ国家 神聖君主 富の集中
- 4 アンデス文明 3000m の高度と寒冷
 - 1) チャビン—デ=ワンタル 祭祀センター ジャガー神(水神)乾燥と天水
 - 2) モチェ文化 150~ 軍事力による強制統制 城砦、大貯水場、灌漑
 - 3) インカ帝国 1300 頃~1535 文字ナシ⇒キープ アイユ(血縁共同体)+ワカ
王道+ダンボ+飛脚 スクレ(階段畑) ジャガイモ、リヤマ、アルパカ⇒トウモロコシ
巡察司 クラカ(首長)+人口の十進分類+双分制 土地三分法(インカ、太陽神、人民)
・クスコ ピューマ 石の技術 ・マチュピチュ 山岳都市 壮大な造景

①



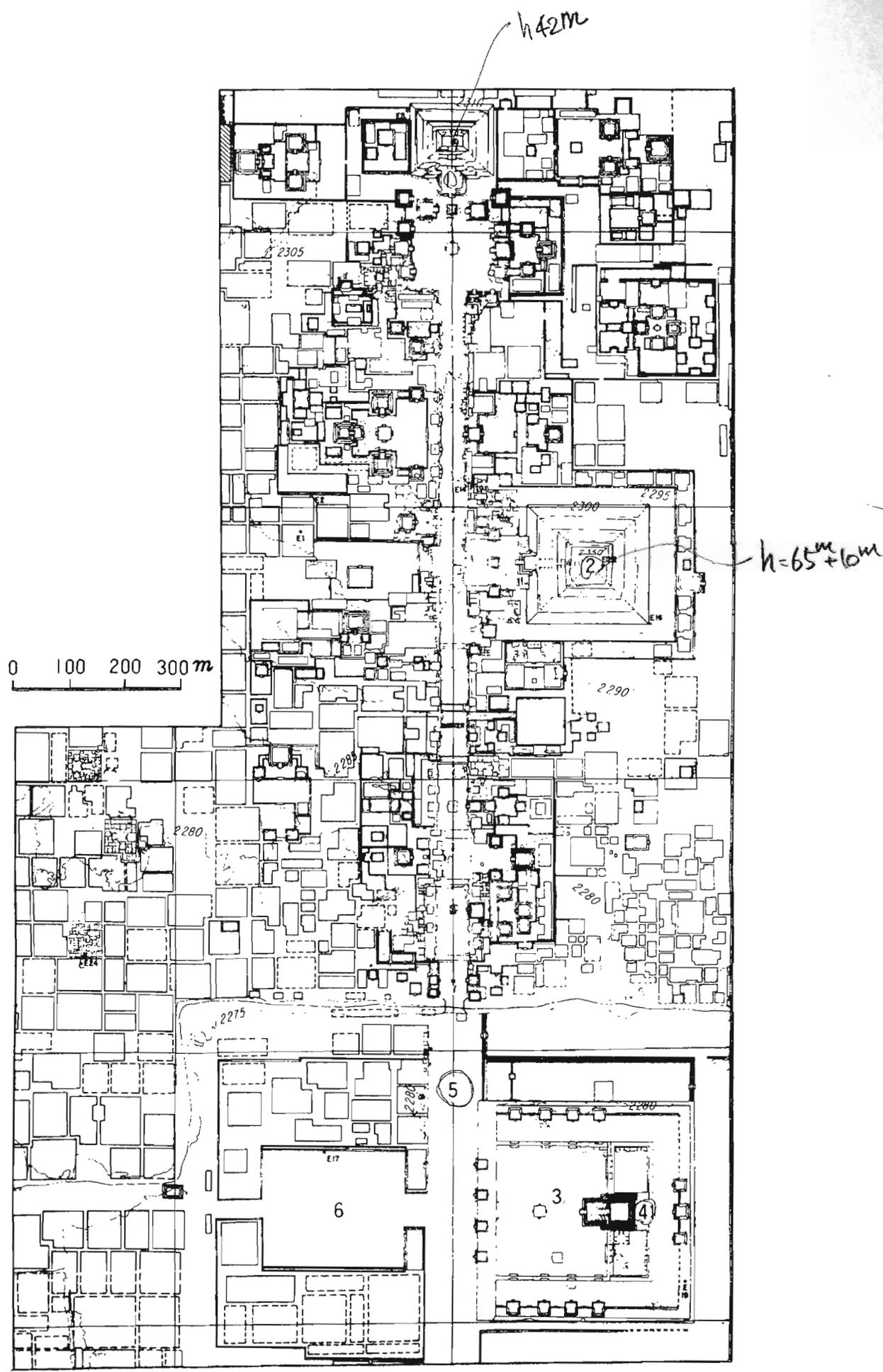
1. ティカル1号神殿 グアテマラ。全体の高さは47mに達する。前面の石碑は北側アクロポリスのテラスの前に配されているものだ。古典期後期。



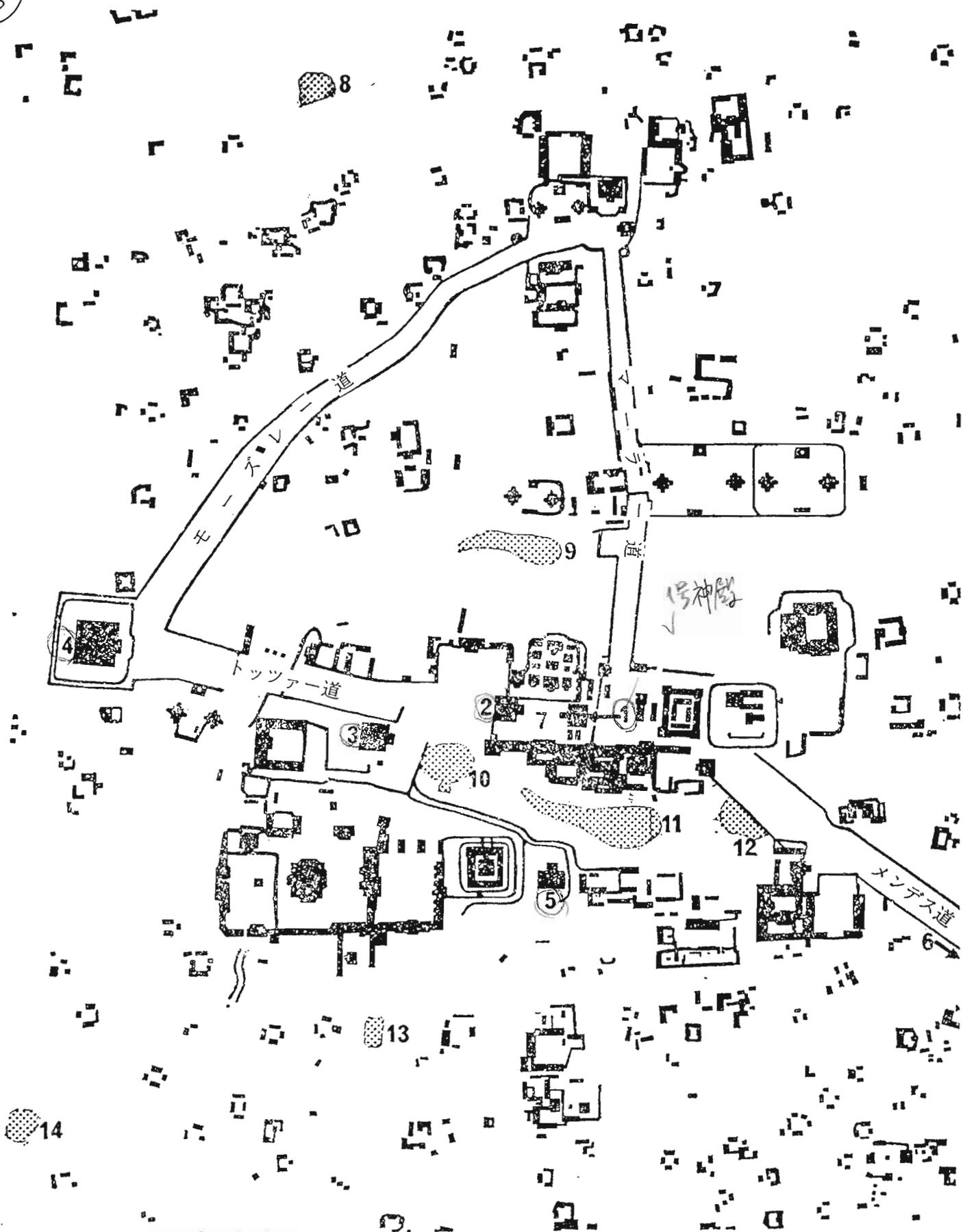
マウソの
高さ32M

ラーベント復原図 P=ヘンドロブによる

2



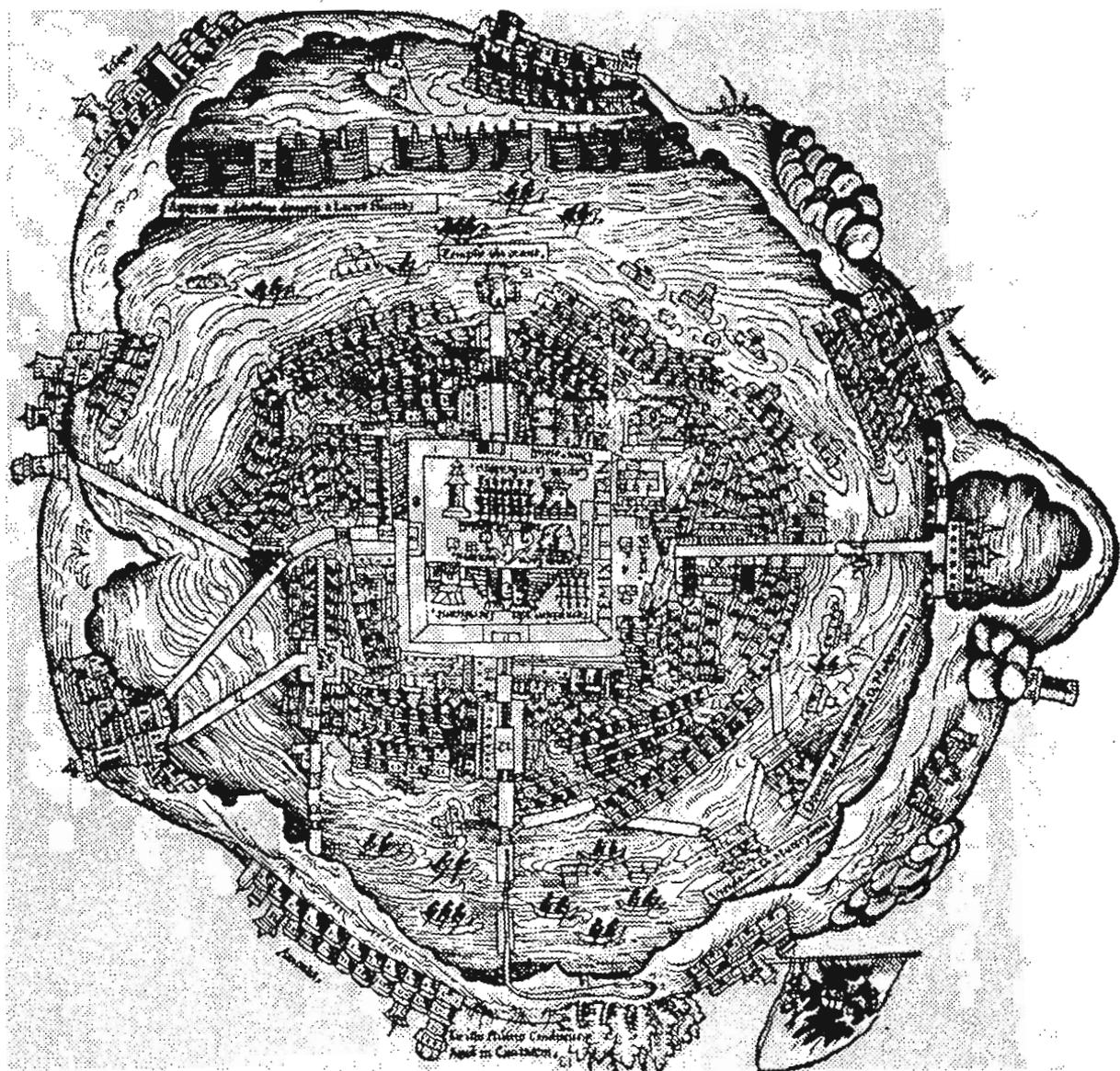
テオティワカン中心部平面図 1. 月のピラミッド
 2. 太陽のピラミッド 3. シウダデーラ 4. ケツァルコ
 アトルのピラミッド 5. 死者の通り 6. 大広場
 ↑ 羽生のはる蛇



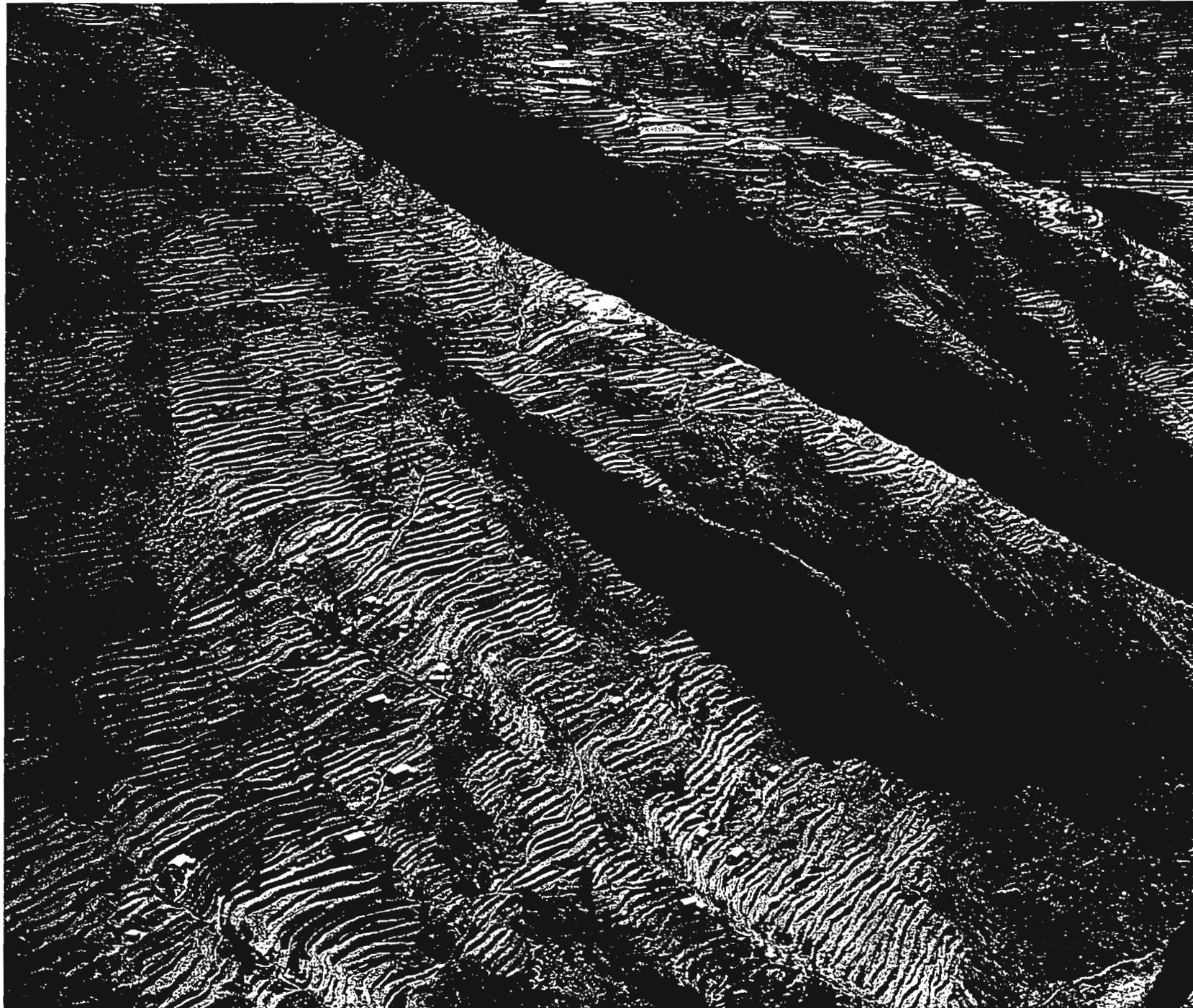
マヤ文明

1. ティカル中心部の平面図 面積2.6平方キロ余 1-5. 1号神殿~5号神殿 6. “碑銘の神殿”
 7. グレート・プラザ 8-14. 貯水池 8. かずら池 9. 通路池 10. 神殿池 11. 宮殿池 12. 隠れ
 13. マディラ酒の池 14. 失われた池

④



テノチティトラン地図 スペインの征服者コルテスが、国王に宛てた報告書に付したもの



インカ農業の伝統　ペルー南部ククヨ地方の大規模な階段耕地。中央アンデスの標高2500～3500mのあたりには、アンデネスの名前で知られている階段耕地が広くみられる。この高度域はトウモロコシの主要な栽培地帯で、石を積み上げた立派な階段耕地はトウモロコシ畑になっている。とくに、インカ時代のものには、耕地としては不必要なくらい精巧につくられたものがあり、トウモロコシが単に食料としてだけでなく、宗教的にも儀礼的にも特別な意味をもつ作物だったことを示している。

写真　山本紀夫



ボブ



ウオ



シブ



ソツ



ツェク



シュル



ヤシュキン



モル



チェン



ヤシュ



サク



セー



マク



カンキン



ムアン



バシュ



カヤブ



クムク



ウアイェブ

図 9 365日暦の月の文字

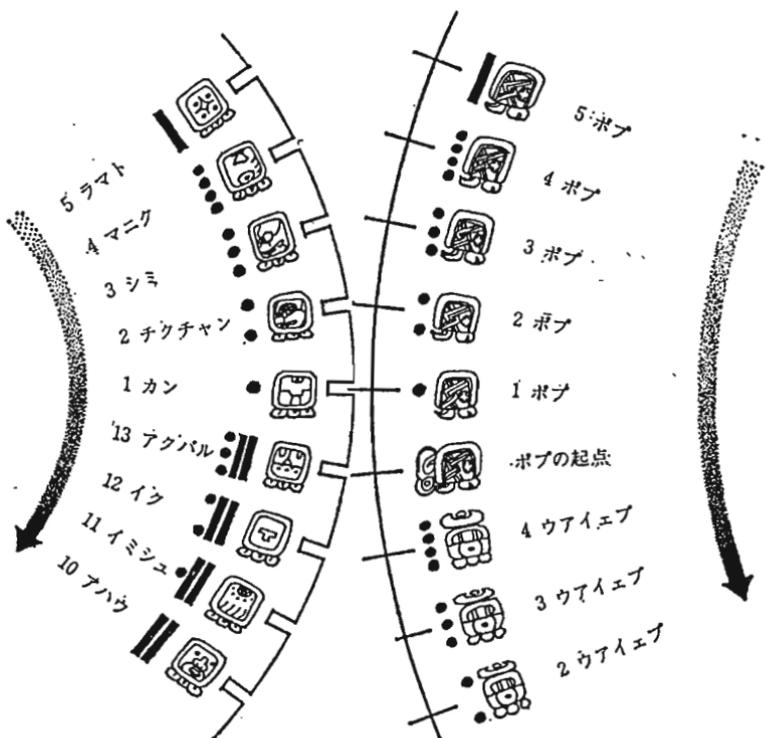


図 10 52年の「暦の周期」の部分模式図